

# 「市民と共にある議会に向けて」を テーマに埼玉県勉強会を開催

## LM地議連

ローカル・マニフェスト（LM）推進地方議員連盟は7月13日、「地方創生元年」市民と共にある議会に向けて」をテーマに埼玉県勉強会を所沢市議会で開催した。勉強会では、議員定数の改正に当たって公聴会を開いたり、市民と超党派のネットワークの活動などの報告が行われた。

### 立法こそ議会の役割

勉強会には埼玉県内の議員を中心に約50人が参加。まず、北川正恭・早稲田大学名誉教授が「地方議会は日本を変える」2015統一地方選挙を終えて」と題して基調講演を行った。北川氏は「議員の集合体である議会が全く住民から評価されていないことが問題」と指摘。議会は執行部の監視に留まらず、自治体のルールを決める「立法こそが役割だ」と説いた。

### 公聴会の活用、 常任委員会による政策提言

続いて県内から三つの事例発表と意見交換が行われた。最初に登場した所沢市議会の入沢豊市議は、議員

定数改正議案に関して議会に附属機関（審議会）を設置し、公聴会を開いた上で議決したことを説明。同市の議会基本条例25条では、議員定数の改正に当たって公聴会制度、参考人制度を十分に活用すべきと規定しており、それに則った取組みだ。

議会運営委員会での協議を経て、学識者など5人による審議会を設置。審議会では、「議員活動の充実のために求められる議員定数として37人、当面の政治的な判断として33人を下限とすることが望ましい」と答申した。その後、パブリックコメントを経て、申し出があった7人の公述人による公聴会を開催。それらを踏まえて13年3月の定例会で、36人（当時）を33人とする定数条例改正案を賛成多数で可決した。入沢市議は

「きちんと審議会で算定基準をつくり、公述人の意見も踏まえて定数を定める所沢市議会の手法が全国に広がってほしい」と話した。

越谷市議会の辻浩司市議は、同市を中心とする「市民と超党派の議員のネットワーク」である「埼玉政経セミナー」の活動について発表した。セミナーでは、11年の統一選において統一マニフェストを掲げ、選挙期間中には統一街頭演説会を開催。地方政治や自治、政策などの講座、マニフェストの検証大会を開き、今春の統一選でも市民参加型の統一マニフェストを作成して選挙に臨んだ。辻市議は、議会改革を進める推進力になっているものの、議会における多数派形成に至っていないことなどを課題として挙げた。

最後に、戸田市議会文教・建設常任委員会の取組みについて、斎藤直子・前市議と真木大輔市議が報告。同委員会では全国各地の先進的な図書館を視察するとともに、委員会主催で図書館のクリスマススイベントとして講演会やミニコンサートを開催。15年1月、短期・中期（16年まで）・長期（20年まで）ごとに図書館改革の方向性をまとめた「また来た」と思わせる図書館に向けての提言書」を作成した。

三つの事例を聞いた北川氏は「先進的な取り組みを各議会で取り入れて善政競争を」とコメント。その後、「市民と共にある議会に向けて議会の現状と課題を考える」をテーマに、5〜6人ずつのテーブルごとにワークショップが行われた。



埼玉県勉強会では「市民と共にある議会に向けて」をテーマにしたワークショップも行われた。